

株式会社若林佛具製作所 取締役相談役

若林副会頭

京都経済の未来を語る

第8弾

KBS京都「京bizX」

竹内キヤスター



京bizXとのコラボでお届けしてきたインタビュ企画の最終回となる今回は、若林副会頭のご登場です。京都産業の礎である伝統工芸の振興に長年にわたって取り組んで来られた実績と経験から、伝統工芸の未来についての熱い思いを語っていただきました。

意欲のある企業・職人を応援し、伝統工芸を後世に残していきたい

〈竹内〉

工芸産業振興特別委員会の委員長として、長年にわたって京都の伝統工芸の振興に尽力しておられますが、伝統産業・伝統工芸の現状をどのように捉えていますか？

〈若林〉

今でこそ「伝統工芸」と言われていますが、そもそも明治以前は京都の主要な産業だったのです。そういった工芸品は、茶道の道具や生け花の器、能楽の衣装など、京都を代表するような文化や芸能を支えてきたと同時に、人々の生活で使われる日用品としても使用されてきました。しかし時代が進むにつれて、生活様式の変化で着物を着なくなったり、より安価で大量生産が可能なプラスチックの製品が登場したりするなど、職人が手仕事で作っていた工芸品は経済競争の中で厳しい立場に立たされてしまいました。伝統工芸の業界の現状を見ると、こうした環境の変化に対して多くの企業職人は時代に乗り遅れたと言わざるを得ないでしょう。

一方で、こうした現状に危機感を抱いた若い世代が中心ですが、現代の生活様式の中でも使ってもらえるような商品

を開発しようと、試行錯誤している経営者や職人もいます。こうした苦しみを理解しているからこそ、京都の伝統工芸・産業を何とか振興して後世に残していきたいという強い思いで、支援の取り組みを進めています。

〈竹内〉

近年では、海外への販路開拓を目指す取り組みやインバウンド需要の増加など、伝統工芸品の普及に光明が見え始めているように感じています。

〈若林〉

以前は業界の組合や団体を通してその業界全体を支援するような施策をとっていることが多かったのですが、海外への挑戦や新しい取り組みを進めているような、高い意識を持っている企業職人を積極的に支援していきたいと考えています。その第一歩として、伝統工芸・産業の技術力や素材を活かし、新たな生活文化を創造する「これからのものづくり」について考える場として、昨年度から「伝統工芸産業NEXTサロン」を実施しています。伝統工芸・産業のこれからを担っていく非常に前向きな若手に多数参加していただき、毎回活発な議論や意見交換

を行っています。こうした取り組みを積み重ねることで、小さな光明ではなく大きな未来が拓けるような可能性を感じています。

〈竹内〉

2019年には「文化×知恵産業展(仮称)」の開催を目指して取り組んでいるとお聞きしましたが、これはどのような取り組みになるのでしょうか。

〈若林〉

私が工芸産業振興特別委員会の委員長に就任してから、京都府・京都市の担当部局とともに「フェニックスサロン」という活動を進めてきました。府・市・商(商工会議所)をもじって、「不死鳥＝フェニックス」という意味です。毎月3者が集まり伝統工芸の振興策について情報交換を重ねることで、オール京都体制で伝統工芸の振興に取り組むための土台を作ることができました。そして、2017年に立石会頭から副会頭の職を仰せつかったことを受けて、いよいよ本格的に取り組むを進めようということになりました。

来年9月には「アイコム(国際博物館会議)の京都大会が開催され、世界的にも



人生において人脈や人間関係は非常に大事

〈竹内〉

伝統工芸の活性化に向けて非常に
楽しみを取り組みですね。

若林副会頭ご自身のことについて
もお話をお聞かせください。毎回、経
営者としての人生の中で経験した失
敗とそこから得られた教訓をお聞き
していますが、若林副会頭はいかが
でしょうか。

こういう性格のおかげか、非常に多く
の方と人脈を築いてくることができ、危
機に陥った時も周囲から助けていただ
けることが多かったように思います。

〈竹内〉

将来を担っていく若手経営者に向け
て、メッセージをお願いします。

〈若林〉

私自身の中で、失敗という感覚はあ
りません。成功・達成するまでやり続け
るか、失敗する前にやめてしまうかの
どちらかですね。

京都の文化・産業に注目が集まる契機と
なります。それに合わせて、歴史に裏打
ちされた京都の文化と、伝統工芸やそこ
から発展した先端産業までを掛け合わ
せて、京都が誇る知恵産業として多くの
方にご覧いただけるような事業にしよ
うと考えています。具体的な内容につい
ては現在協議を進めているところです
が、来春に完成する京都経済センターや、
2021年までに実現する文化庁の京都
移転など、京都にとって非常に大きな動
きがある中で、「文化 × 知恵産業展(仮
称)」をこれらと一体となって開催する
ことで、伝統工芸を盛り上げるきっかけ
にしていきたいと考えています。

私は小さいときから、周りの人の中
で「反面教師」を探すようにしていまし
た。周囲の人から疎まれ、いやがられ
ている人を見つけ、その人の言動と反
対のことをする。そうすることで、自
然と人間関係はうまくいくようになり
ます。人間関係の悪化が失敗の大きな
要因となることが多いと思いますが、
自分の芯となる考えはしっかり持ちつ
つも、人と接するときには相手が求め
るような対応を心がけて行動すること
で、円滑な人間関係を築くことができ
ると考えています。

〈若林〉

先ほどの話と重なりますが、経営者
としてだけではなく、人生において人
脈や人間関係は非常に大事なことで
す。そういう意味で、相手に喜ばれる振
る舞いや行動を心がけ、まわりから愛
されるような人間になっっていくことが
重要ではないかと思えます。若手経営
者の集まりでもこの話をしたことがあ
りますが、参加者からは非常にわかり
やすくためになったと言っていました。
人間ですから、時にはネガティ
ブな感情を持ってしまいうこともあ
ると思いますが、表に出さずに周囲を気
遣うことで、いずれその行動が自分に
返ってくることもあり、ピンチの時に助
けてくれる人が現れるものです。



※このインタビューの模様は、9月14日の
「京bizX」で放送されました。

[京bizX]

毎週金曜日21:00~22:25 KBS 京都テレビにて放送中。